

### 3. 中国の生命保険市場の 展望と課題



北京工商大学教授 王 緒瑾

○コーディネータ 最初に、王先生のご紹介をしたいと思います。王先生は、北京工商大学の教授で、現在、保険学部の学部長をされています。王先生は非常に多くの著書や論文がありまして、まさに中国を代表される保険学者でいらっしゃいます。王先生は、中国のテレビにもしばしば登場されていまして、非常に有名な先生です。また、先生は中国保険学会の常任理事に加えて、アジアの保険リスクマネジメント学会であるエイプリアの常任理事として中国だけでなく、国際的にも活躍をされています。また、先生は、日本の文部科学省に当たる政府の教育部の指導委員会という非常に重要な委員会の委員になっておりまして、中国全体の大学教育における中心的な役割を担っているといったことでも力を尽くされています。また、北京仲裁委員会の委員としても活躍されています。

本日の通訳には、日立中国財務保険センターのマネージャーでいらっしゃる劉様をお願いしております。それでは、どうぞよろしく願いいたします。

○王 尊敬する江澤教授、辻山所長、本大会の司会者、皆様、こんにちは。本日は、お忙しい中お越しいただき、皆さんと一緒に中国生命保険市場について検討することができまして、まことにありがとうございます。

本日は、主に中国生命保険市場の現状、問題点および対策について申し上げます。(シート2) 中国の生命保険市場については、主に3つの問題を提示したいと思います。1つ目は、中国における生命保険市場の現状。2つ目は、現在、中国の生命保険市場が直面している問題点です。3つ目は、中国における生命保険市場の行先及びこれからの対応策となります。

なぜ今回このテーマを設定したかと言いますと、まず、江澤教授からのありがたいこのご提案がきっかけとなっています。また、これまで私が中国保険業界における第十期及び第十一期五ヶ年計画の策定に参画したことと、中国金融業界における第十一期五ヶ年発展計画の認定に携わった経験も、このテーマを選んだ背景となっています。

今ご覧になっている中国生命保険市場の特徴というの、十一期五ヶ年計画を策定していた当時、よく述べられていたものであります。主として、発展の急速化、新保険種目開発の活発化、及び全体はまだレベルの低い均衡状態と、3つ特徴が挙げられます。(シート3)

ここで発展の急速化というのは、生保保険料収入の全体保険市場に占めるシェアが急速に成長しているということです。また、新しい保険種目開発の活発化というのは、主に販売チャネル、

商品及び企業の組織形態における多様化を意味しています。また、均衡状態とはいえ、全体としてはまだレベルが低い状態にあります。それは、需要と供給がともに不足しているということです。すなわち、生保商品があまり売れていない反面、消費者が求めている商品も提供されていないということです。

中国生命保険市場の現状は、具体的には、ご覧になっている7つの要点にまとめられます。(シート4) 1つ目は、生命保険料の収入の長期間の高い成長とともに、生保保険料全体に占めるシェアも上昇しているということです。2つ目は、市場構造の健全化および集中度の低下に伴い、独占的競争型市場モデルが形成されているということです。3つ目は、業務構造の調整と新しい生保商品の迅速な発展となります。4つ目は、多層な生命保険市場の構造が形成されつつあることです。5つ目は、営業手法の多元化となり、6つ目は資金運用規制の緩和及び生保会社の投資収益率の増加であります。7つ目は、中国の生命保険市場が開放されつつあるところです。

まず1つ目についてご説明させていただきます。(シート5) 生命保険料の収入が急速に伸び、生保市場が保険市場全体に占めるシェアも上昇しています。ここでご注意をいただきたいのは、中国における生命保険というのは、生命保険の他、傷害保険と健康保険も含まれているということです。

なぜ中国の生保市場が急速に成長をしていると言えるのでしょうか。

中国の保険業務は、1958年になって始まりましたが、生命保険は、1982年になって初めてスタートしたのです。損害保険がスタートしたのも、1980年となります。1982年から2009年まで、生保市場の年間平均成長率は56%を超えており、著しい成長を遂げました。(シート6) 1982年に生保保険料の収入は159万元しかなかったのに対し、2009年になると8261.5億元まで上昇してきました。生保市場が急速に成長を遂げた要因を申し上げますと、1982年になって初めて民間の生保業務が開始したため、出発点は比較的低かったことが挙げられます。また、中国の経済が急速に成長を遂げていること、及び生命保険会社の増加も原因となります。データによりますと、1982年には生保会社が1社しかなかったのですが、2009年になりますと59社まで増えてきているそうです。加えて、投資型の生保商品が販売されるようになったのも、成長につながる要因となるでしょう。

これから成長率についてご説明したいと思います。シート7は、1982年から2009年までの保険料収入に関するデータの一部抜粋となります。1987年における対前年成長率は106.6%であり、1992年は48.5%となります。2009年になりますと、成長率が大幅に減少していたのですが、それでも10%を超えていました。

皆様もご存知のとおり、2008年に世界的な金融危機が起きました。恐らくそれも2009年に成長率が低下する要因となったでしょう。それではなぜ2008年の成長率が高かったのでしょうか。その背景として、利子率を下げる政策の実行が考えられます。そのため、生保商品の購入を一種の投資とする消費者がでてきたわけです。

2009年になりますと、資本市場の回復に伴い、投資はまた株式市場のほうに流れていったため、生保市場の成長率は低下していたわけです。

次に、生保保険料の収入が保険料全体に占めるシェアの上昇についてご説明します。

1980年から2009年にかけて、損害保険の年間平均成長率は24.86%であるのに対し、生命保険の成長率は56%を超えており、著しい成長を遂げています。(シート8・9) それに伴い全体に占めるシェアも徐々に上昇していくのです。1982年、生保のシェアが0.16%しかなかったのに対し、2009年には74.18%まで上昇してきました。(シート10・11・12・13) 保険料の収入は全体的に上昇し、市場も徐々に成熟化してきて、独占型から独占的競争型へと転換しています。(シート14)

ご存知かもしれませんが、1988年までの中国では、保険会社といえば、PICC(中国人民保険会社)の一社しかありませんでした。当時、PICCは生命保険と損害保険の両方の業務を展開していたのです。しかし同年、シンセン平安保険会社の参入によって、PICC一社の独占状態が打破されたのです。シンセン平安保険会社は、1992年に中国平安保険会社へと社名変更をし、今の中国平安となったのです。1992年、米国のAIA社が初めての外資として中国市場へ進出し、1996年、中国石油化工グループとカナダの宏利保険会社との合弁会社であります中宏人寿が設立されました。2008年になりますと、保険会社の数は56社に達しており、2009年には、さらに59社まで増えてきました。(シート15)

シート16は2002年から2009年にかけての生保会社の会社数の推移であります。2002年の23社から、2009年の59社まで伸びて、急速な発展と言えるでしょう。

続きましては、生保市場のシェアの推移について述べたいと思います。シート17は中国人寿、中国平安及び中国太平洋といった大手生保会社3社の市場シェアの推移を表しています。中国人寿のシェアは1996年の63.95%から、2009年の38.08%まで落ちてきました。中国平安保険は1996年の20.59%から16.51%まで落ちており、中国太平洋保険は11.6%から8.3%まで下がってきました。大手3社の合計シェアも1996年の97.14%から、2009年の62.89%まで下がってきたのです。それは市場構造の変化、つまり昔の独占型から独占的競争型へと移行していることを意味しています。

さて、業務構造はどうなっているでしょう。(シート18) まず、保険種目の変化についてですが、中国では健康保険と一般生保のシェアが伸びる一方、傷害保険のシェアが低下している傾向が見られます。生命保険だけを見ても、新しい商品のシェアが伸びていることがわかります。新しい商品というのは、配当付保険、ユニバーサル保険及び変額保険を指しています。

生命保険の市場シェアは、2000年の85.36%から2009年の90.27%まで、健康保険の市場シェアは1998年の3.75%から2009年の6.95%まで伸びています。一方、傷害保険の市場シェアは1998年の7.31%から、2009年の2.78%まで大幅に下落しています。(シート19・21) シート20は2000年から2009年までの中国各生保種目の市場シェアの推移状況を示しています。

次に、新しい生保種目について紹介します。1982年生命保険業務が開始してから1999年にかけて、中国ではやはり伝統的な生命保険が主流となっています。1999年以降となりますと、投資型商品が次第に増えてきています。その要因として、1997年の預金金利の低下及び資本市場の健全化が挙げられます。(シート22)

シート23の通り、新しい生保商品のシェアは、2002年の55.81%から2008年の85.23%まで上昇する一方、伝統商品のシェアは14.77%まで下がってきました。シート24では、配当付保険、ユニバーサル保険及び変額保険のシェアの変動が示されています。2002年から、配当付保険と変額保険のシェアは徐々に上昇し、ユニバーサル保険は1.55%から21.79%まで、急速に伸びてきています。

続きまして、生保市場の多重構造の形成について述べたいと思います。1つ目は仲介市場の更なる発展です。2009年までに、保険仲介機構が2570社に達しています。2つ目は、生命保険会社の細分化です。老保険会社5社、健康保険会社4社が設立されました。3つ目は、民間資本の生保市場への参入です。2003年、民生保険会社の設立を革切りに、民間資本も生保市場に参入し始めています。全体的に言えば、組織形態の多様化、経営主体の多元化、経営様式の多様化が中国生保市場の特徴となっており、徐々に健全な市場形成に向かって発展しつつあります。(シート25)

シート26は2008年度の保険機構数及び従業員人数を示しています。この表では中国生保市場の現状が窺えるでしょう。生保商品の販売も速いスピードで成長しています。保険代理店や外販員の数も著しく増加しています。2009年には、保険代理店が1903社、ブローカーが378社、外販員が257.7万人に達しています。(シート27・28)

生保商品の営業手法も多様化しています。2002年から、銀行や郵便局での販売が始まって、後に個人代理も増えてきました。銀行及び郵便局による販売収入が全収入に占める割合がかなり高いと見られます。(シート29) 2009年は金融危機の影響もあって、多少シェアが落ちていたのですが、それでも保険料収入全体の44.39%を占めています。また個人代理も39.35%を占めています。(シート30)

続きましては、資金運用状況について述べたいと思います。保険業における収益率が増加しつつありますが、安定した状況とは言えません。(シート31)

シート32は、1999年から2009年までの、投資収益率の推移を表しています。2006年は5.8%でしたが、2007年は一気に12.17%まで伸びていました。2008年になりますと、1.91%まで下がって、2009年はまた回復し、6.41%まで上がりました。

投資収益率の変化は、資金運用構造と関連していると思われます。銀行預金が全体に占めるシェアが下がる一方、債券、投資信託及び株式への投資が上昇しつつあります。(シート33) その他の投資の割合は比較的低いです。具体的な数字はシート33に載っていると思いますので、ここでは割愛させていただきます。



次に生命保険市場の対外開放についてご説明します。中国は2001年になって初めてWTOに加盟しましたが、実は1992年から、外資保険会社は既に中国市場に進出していました。1996年に外資との合弁会社が設立され、2001年WTO加盟後、外資への規制がさらに緩和しました。2008年末までに、生保会社56社の中で、外資保険会社が26社に達しています。市場シェアで言いますと、2000年は0.2%しか占めていなかったのに対し、2008年には4.92%、2009年には5.23%を占めています。(シート37)

次は中国生命保険市場の問題点について説明させていただきます。(シート38) 主に8つありまして、1つ目は有効供給と有効需要の不足、2つ目は構造の不均衡、3つ目は業界自律規制の欠如、4つ目は保険市場の国際化と監督管理方式との不一致、5つ目は多角化経営と監督管理方式との不一致、6つ目は不安定な資本市場と保険商品の開発との不一致、7つ目は地域格差の問題、最後に、社会保険と商業保険との不一致です。

有効供給と有効需要の不足についてですが(シート39)、まず、有効供給の不足を具体的に説明しますと、やはり市場主体の不足、不合理な商品開発、不健全な営業システムが主な問題点となります。また、支払能力の強化及び市場撤退体制の形成も必要とされています。

有効需要の不足に関しては(シート40)、やはり不健全な市場経済に起因があると思います。1982年に生命保険業務が開始されたとはいえ、当時の中国社会はまだ計画経済のもとで動いていたのです。実は、1992年に鄧小平氏によって「市場経済と資本主義とはイコールではない」という講演が行われて初めて、中国は市場経済の軌道に乗り始めたという経緯があります。ゆえに、生保市場の問題は究極的に、市場経済が不健全であることに起因するとも言えます。

国民の保険に対する認識が未だに不足しているというのも現状です。具体的に説明しますと、1つの原因は、生保業務の開始からまだ20数年間しか経っておらず、時間がまだ短いということです。ここではとても面白い事例を紹介したいと思います。80年代末期のある日、「金庫が壊れました。早く修理に来てください」とのクレームが、保険会社のところに来たのです。なぜならば、中国では、金庫のことを「保険箱」と呼んでおり、保険会社が保険箱を生産している企業だと思われたからです。このことから、国民の保険に対する認識の不足が少し窺えるかもしれません。また、保険会社のサービスが不健全であることも、認識不足の原因といえるでしょう。さらに、国民の収入水準がまだ低いこと、貧富格差が大きいこと、及び保険商品の価格が高いことも、国民の生保に対する認識不足につながっていると思われます。

不合理な商品構造と言いますと(シート41)、健康保険及び傷害保険のシェアが低いことや、短期且つ投資型契約志向が問題となっています。シート42は、投資型生保商品であるユニバーサル保険と変額保険の発展状況です。

営業手法に関しては、販売代理による場合が多いとはいえ、法律上、外販員に関する規定が未だにはっきりしていないのが現状です。(シート45) 外販員は生保会社の従業員とも、契約者の委託人とも、はっきり定義付けられていません。

市場主体の不足という問題は先ほど述べましたので、ここでは省略させていただきます。

また、業界自律組織の欠如も問題点となっています。(シート 47) 保険会社の立場に立って、保険業界を守ろうとする組織は、正直、中国にはまだないです。その他、業界自律公約も機能していません。

中国保険市場の国際化と監督管理方式との不一致についてご説明します。(シート 48) 2001 年、中国が WTO に加盟したとはいえ、今でも完全に市場経済へ移行したとは言えないです。監督管理に関しても、企業の市場行動への関与が多く、監督管理システムの健全化が要請されます。(シート 49)

多角化経営と監督管理との不一致についてですが、中国には既に保険、銀行、証券を包括する金融グループが存在しています。しかし現行する監督管理制度は、依然として業種ごとに設けられているため、現場に応じた転換が必要とされています。

不安定な資本市場と商品開発との不一致も問題となっています。(シート 50) シート 51 には上海証券取引所の株式指数図が描かれてあります。中国の株価指数は 2005 年から 2007 年にかけて、1000 点より 6124 点まで急速に伸びましたが、2008 年 10 月には、1664 点まで急降下していました。2009 年 8 月ごろにやっと 3487 点まで回復したと思いきや、2010 年はまた 2500 点に落ちました。

生保会社の投資収益は、主として証券及び株式投資からの収益からなっています。2007 年の投資利益率表を見ても、証券投資信託の収益率は 55.89% に、株式の投資の収益率も 31.7% に達しました。(シート 52) 2700 億人民元を超えている収益のなかで、証券投資信託及び株式投資による収益は 2000 億人民元を超えていました。

しかし 2008 年の投資収益率表を見ますと (シート 53)、証券投資信託及び株式投資の赤字によって、約 200 億人民元の損失が出てしまいました。そのせいで、2008 年度保険会社全体の投資収益は、580 億人民元しかなかったとの結果が出ました。

以上は投資収益に関する説明でしたが、次は支払った保険金を差し引いた総合収益について述べたいと思います。(シート 54) 2006 年の総合収益は 51 億人民元しかなかったのですが、2007 年には、678 億元までに増加しました。しかし、2008 年には、583 億元の投資収益しかなかったため、総合収益が 50 億元に留まったのです。2009 年になると、530 億元まで収益が回復しました。その背景には、会計制度の改訂が影響を及ぼしていると思われます。

経済発展が比較的早い東部において、生保市場の規模も大きいという地域格差の現象が生じています。生保の保険料収入で言いますと、東部は全体の 57.91% を占めており、中部は約 24% を占め、西部は 17.33% しか占めておりません。(シート 57)

社会保険と商業保険との関係についてですが、やはり社会保険の対象範囲が狭いことにより、商業保険との不一致が生じると思います。(シート 58) 高収入層は、社会保険によって保障されている一方、低収入層は、社会保険に加入する資格も、商業保険に加入する経済力も持っていま

せん。そうすると、商業保険の社会保険に対する補完機能も発揮できないままです。

以上述べた中国生保市場の現状を踏まえて、生保市場の健全化のために、シート 59 のような提案があります。まず生保市場自体の改善から見てみましょう。1 つ目は大手国営保険会社の管理体制の改善、2 つ目は中小保険会社の改善、3 つ目は保険会社の組織形態の多様化が要請されています。

生保市場構造から言いますと、市場撤退体制の健全化、情報公開制度の改善及び独占的競争型市場への転換が重要だと思われます。(シート 60) 商品の構造の面では、養老保険や健康保険といった生活保障を提供する商品の開発が必要とされています。(シート 61) 例えば企業年金の問題も、養老保険と健康保険と一緒に、政府からの支援が重要だと思います。

営業チャネルの面では、個人外販員制度の改善が重要だと思いますが、それについて保険監督管理委員会では、まだ検討中となっています。その他、銀行との提携及び電話販売、インターネット販売の展開も改善方法となるでしょう。(シート 62)

資金運用の方法を見てみますと、投資比率は既に従来の 10%までから、20%までへと緩和されましたが、これからは、更なる緩和が必要となるでしょう。それに伴い、企業内部の制度及び意思決定のプロセスの改善によるリスク管理制度の健全化も要請されるでしょう。(シート 63)

続きまして、生保市場の差別化について述べたいと思います。ここでの差別化というのは、経営、組織形態、サービス及び商品の差別化を指しています。(シート 64) 具体的には、各地域の経済発展状況に応じて決めるべきではないかと思います。例えば、東部において株式会社という組織形態が必要ですが、西部においては、総合保険会社のほうが適切なのかもしれません。経済発展が比較的早い地域において、投資型商品が中心となるかもしれませんが、そうでない地域では、養老保険や健康保険のほうがいいかもしれません。また、電話販売やインターネット販売といった営業手法が、経済発展の早い地域においては適切ですが、そうでない地域においては、やはり伝統的な直接販売方式が適合するでしょう。

生保市場の基礎制度に関しては、監督管理制度の健全化、企業内部制度の改善、業界自律制度の強化が重要だと思います。例えば、業界自律制度において、悪質な外販員が載っているブラックリストも必要となるでしょう。(シート 65) 日本においても、同じような問題に遭ったのではないかと思います。

生保市場の対外開放の改善について説明しますと、現在、中国では主として、数量主導型方式を採用しております。その原因として、金融リスクの回避、生保市場の不均衡及び従来の国際的経験が挙げられます。(シート 66)

最後に申し上げたいのは、一体化した社会保険システムを作らなければならないということです。社会保険に対して、商業保険が真の補完機能を発揮できるようなシステムが必要であり、中国では、社会保険に関する研究が数多くなされていますが、依然として、都市部と農村部の格差、都市部の中の格差が問題視されています。

また、社会保険は基本的な需要を満たすのに対して、商業保険は特別な需要を満たすものであるべきですが、現状ではなかなかそうは言っていません。例えば、もし現在、私が病気にかかった場合、社会保険だけでもほとんどの費用が保障されます。当然のことで、商業保険を必要としないでしょう。しかし、もし社会保険が基本的な需要にのみ対応するのならば、自然に商業保険の需要が増えてくるでしょう。そうして初めて、商業保険が社会保険に対して、補完機能を発揮できるわけです。(シート67)

13億人もいる中国市場は、まだまだ完全には開発されておらず、様々な可能性が潜んでいます。これからも中国の生保市場について、皆様と一緒に研究及び検討の機会があれば幸いです。皆様が北京へお越しになる日を期待しています。本日はご清聴、ありがとうございました。

○コーディネータ　王さん、劉さん、どうもありがとうございました。ダイナミックに発展する中国の市場の状況とあわせて、いろいろな分野での問題も生じているということで多角的にご説明いただきましたし、非常に詳しい資料ですので、かなり参考になるのではないかと思います。



# 中国の生命保険市場 の展望と課題

2010年6月15日  
北京工商大学  
経済学院保険学部  
王緒瑾

1

シート1

## 目次

1. 中国生命保険市場の現状
2. 中国生命保険市場の問題点
3. 中国生命保険市場健全化の検討

2

シート2

## 中国生命保険市場の特徴：

1. 発展の急速化
2. 新保険種目開発の活発化
3. 全体はまだ低いレベルの状態

3

シート 3

## 1. 中国生命保険市場の現状

- 生保保険料収入の長期間の急速な成長、保険業の全体保険料に占めるシェアの更なる上昇
- 市場構造の更なる健全化及び市場の集中度の低下に伴い、独占的競争型市場の形成
- 業務構造の調整、新生保商品の急速な発展
- 多層な生命保険市場構造の形成
- 営業手法の多元化、個人代理及び銀行・郵便局窓販はメイン
- 資金運用規制の緩和、投資収益率の増加
- 生命保険市場の対外開放

4

シート 4

## 1. 中国生命保険市場の現状

### (1) 生保保険料収入の長期間の快速な成長、保険業の全体保険料に占めるシェアの更なる上昇

- ・ 生保保険料収入の長期間の快速な成長
- ・ 全体保険料に占めるシェアの更なる上昇

5

シート5

## 1. 中国生命保険市場の現状

### ① 生保保険料収入の長期間の急速な成長

1982年より中国国内民間生保業務の再開以来、保険料収入の成長はGDPより速く、1982年の159万元から2009年の8,261.5億元までに達した。年間平均成長率は56.5%

主な原因:

- 1982年より民間生保業務再開のため、出発点は低い
- 中国経済の急成長のため、生保のニーズが増加
- 保険会社の増加
- 投資型生保商品の販売

6

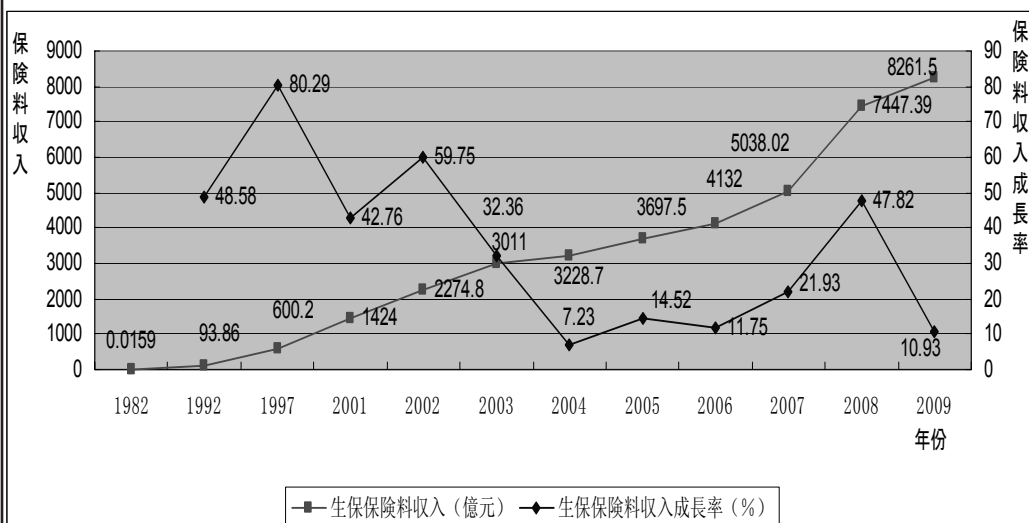
シート6

### 1982～2009年中国生保保險料收入

年	GDP(億元)	成長率(%)	生保保險料收入(億元)	成長率(%)
1982	5294.7	9.1	0.0159	
1987	11962.5	11.6	23.41	106.62
1992	26638.1	14.2	93.86	48.58
1997	74462.6	8.8	600.20	80.29
1998	78345.2	7.8	758.30	26.34
1999	81910.9	7.1	872.10	15.01
2000	89442.2	8.0	997.50	14.38
2001	97314.8	7.5	1424.00	42.76
2002	102397.9	8.0	2274.80	59.78
2003	116528.5	9.0	3011.00	32.36
2004	136515.0	9.5	3228.70	7.23
2005	182321.0	9.9	3697.50	14.52
2006	209407.0	10.7	4132.00	11.75
2007	246619.0	11.4	5038.02	21.93
2008	300670.0	9.0	7447.39	47.82
2009	335353.0	8.7	8261.50	10.93

シート 7

### 1982～2009年 中国生保保險料收入



8

シート 8



## 1. 中国生命保険市場の現状

### ②全体保険料に占めるシェアの更なる上昇

- 損保の保険料収入は1980年の4.6億元から2009年の2,875.8億元までに増加、年間平均成長率は24.86%
- 1982年より中国民間生保業務の再開以来、生保保険料は当年の0.016億元から2009年の8,261.5億元までに増加、年間平均成長率は56.5%
- 生保保険料収入の成長率は損保より非常に高く、特に2000年以降、新生保商品の開発による両者のギャップはさらに拡大

9

シート9

### 1985～2009年生保と損保の保険料収入成長率の比較表

年	生保成長率(%)	損保成長率(%)
1985	22.73	49.94
1990	28.71	36.78
1991	59.78	28.17
1995	12.42	15.97
2000	14.38	14.80
2001	42.76	14.60
2002	59.78	13.30
2003	32.36	11.70
2004	7.23	25.40
2005	14.52	12.90
2006	11.75	22.60
2007	21.93	32.40
2008	47.82	20.00
2009	10.93	23.10
年間平均成長率	56.50	24.86

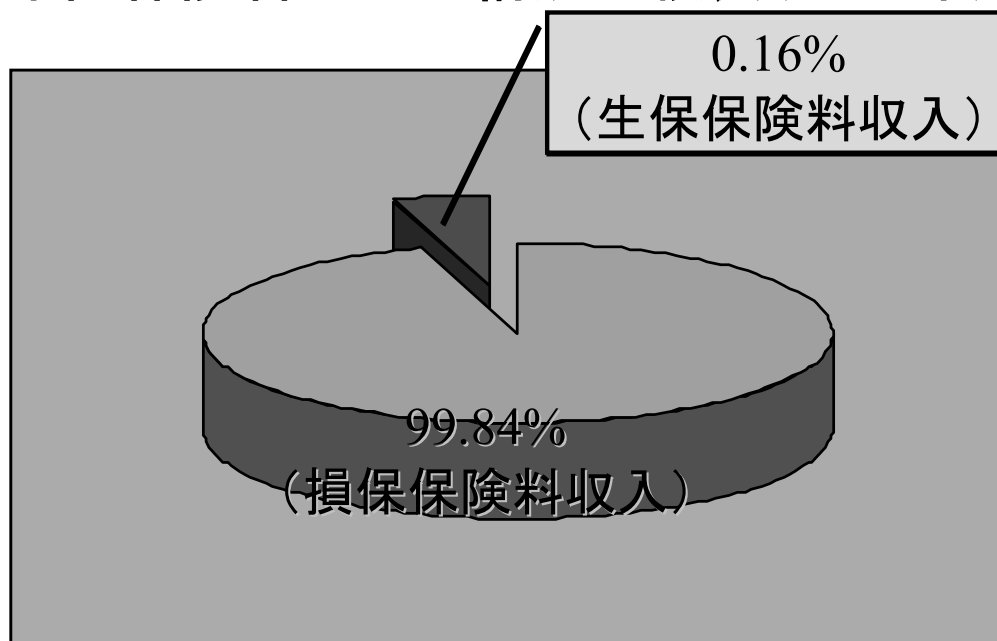
シート10

## 1980～2009年中国保険料収入の比較表

年	生保保険料収入 (億元)	損保保険料収入 (億元)	生保のシェア (%)	損保のシェア (%)
1982	10.28	0.016	0.16	99.84
1985	28.69	4.41	13.32	86.68
1990	106.76	28.41	21.02	78.98
1995	390.70	204.20	34.33	65.67
1997	600.24	480.73	55.53	44.47
2000	997.50	598.40	62.50	37.50
2001	1424.00	685.40	67.51	32.49
2002	2274.80	779.81	74.47	25.53
2003	3011.00	869.40	77.60	22.40
2004	3228.70	1089.90	74.76	25.24
2005	3697.50	1229.90	75.04	24.96
2006	4132.00	1509.40	73.24	26.76
2007	5038.02	1997.70	71.61	28.39
2008	7447.39	2336.70	76.12	23.88
2009	8261.50	2875.80	74.18	25.82

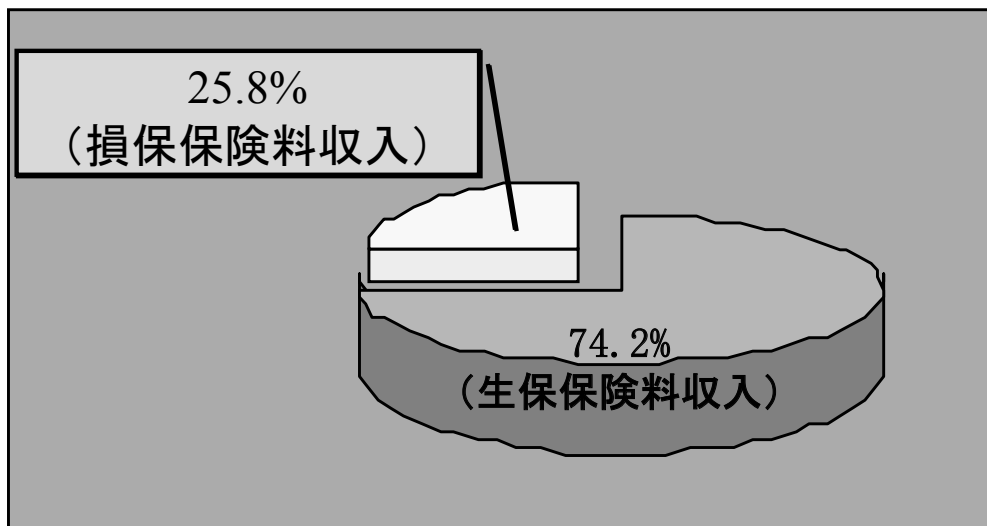
シート 11

## 中国保険料収入の構成比較表(1982年)



シート 12

## 中国保険料収入の構成比較表(2009年)



13

シート 13

## 1. 中国生命保険市場の現状

### (2) 市場構造の更なる健全化及び市場集中度の低下に伴い、独占的競争型市場の形成

- ・ 市場構造の更なる健全化
- ・ 市場集中度の低下による独占的競争市場モデルの形成

14

シート 14

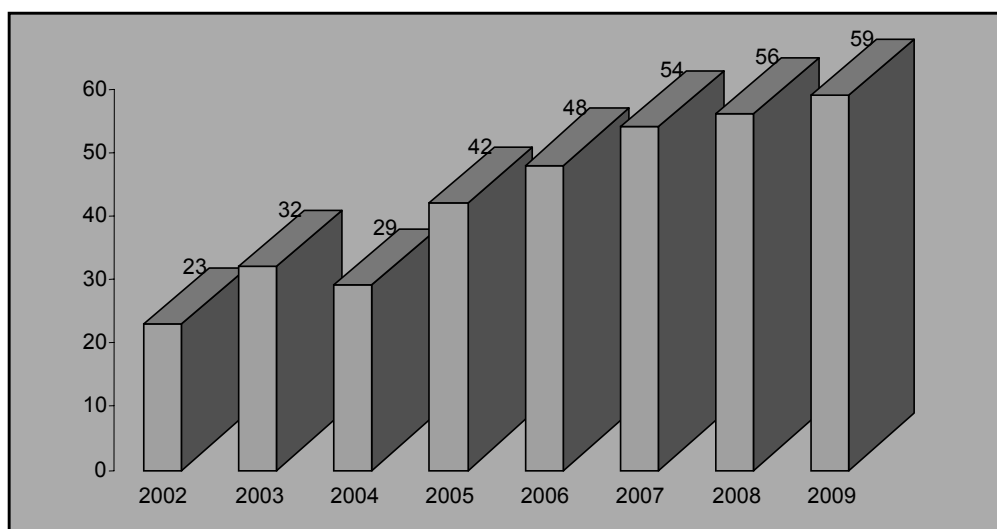
## 市場構造の更なる健全化

- 1982年より中国国内生保業務の再開から1988年まで、中国における生保会社は1社のみ：中国人民保険公司
- 1988年平安保険公司の設立は中国人民保険公司の生保市場の独占地位を打破
- 1992年米国のAIAは上海で支店設立
- 1996年中国初めての合弁生保会社として中宏人寿設立
- 2008年まで、生保会社56社の中に、中国資本の会社30社、外国資本の会社26社、また総合型生保会社47社、専門型の健康保険会社4社、養老年金会社5社がある。
- 2009年末まで生保会社は合計59社

15

シート 15

## 2002～2009年 中国生保会社の会社数

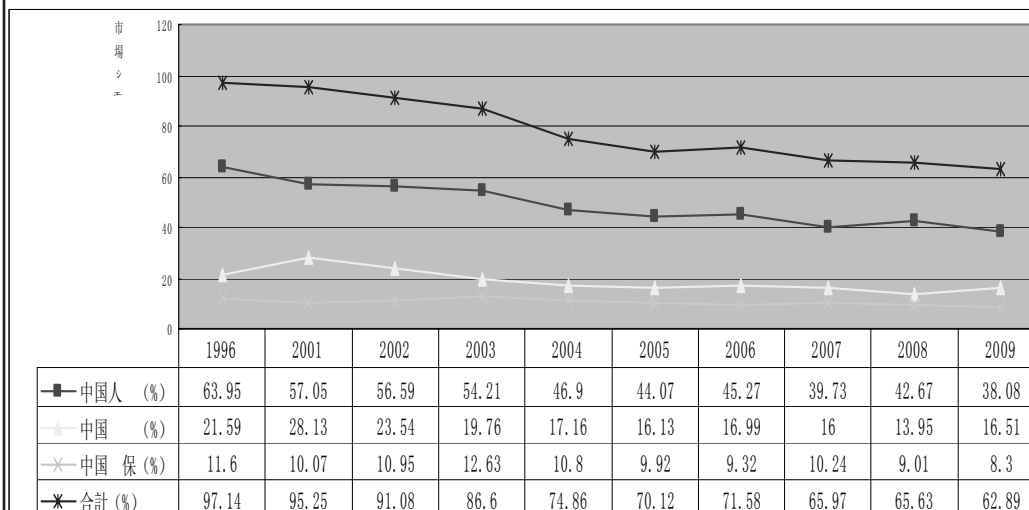


16

シート 16



## 1996～2009年 中国人寿、中国平安、中国太平洋の生保市場シェア



17

シート 17

## 1. 中国生命保険市場の現状

### (3) 業務構造の調整、新生保商品の迅速な発展

- ①各保険種目の発展は異なり、一般生保、健康保険、  
傷害保険の市場シェアは変動あり
- ②生保の保険種目構成の調整により、主な種目は過去  
伝統商品の生存死亡保障から新生保商品に変更

18

シート 18

## 1. 中国生命保険市場の現状

### ①各保険種目の発展は異なり、一般生保、健康保険、傷害保険の市場シェアは変動あり

- ・ 生保商品と健康保険の市場シェアの上昇。

生保市場シェアは2000年の85.36%から2009年の90.27%までに伸び、健康保険の市場シェアは1998年の3.75%から2009年の6.95%までに伸び

- ・ 傷害保険の市場シェアは大幅に下落。

1998年の7.31%から2009年の2.78%までに縮小

19

シート 19

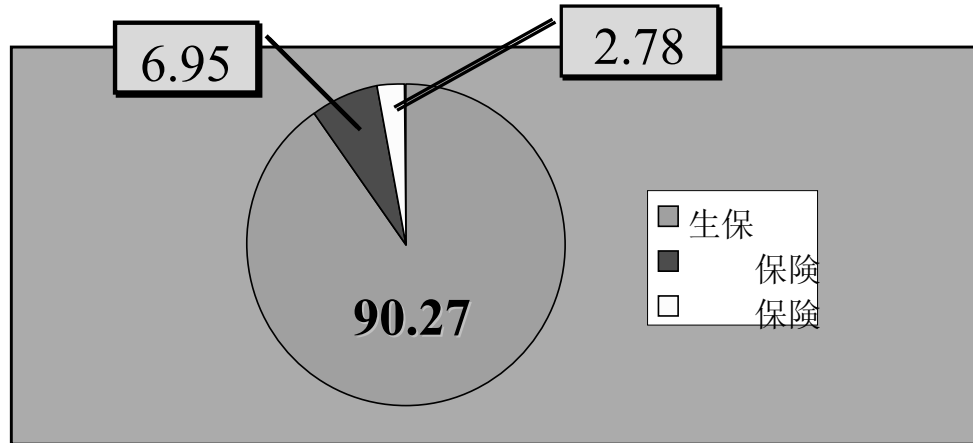
## 2000～2009年 中国各生保種目の発展

年	生保 (億元)	健康保険 (億元)	傷害保険 (億元)	生保シェア (%)	健康保険シェア (%)	傷害保険シェア (%)
2000	851	65	81	85.36	6.52	8.12
2001	1288	62	75	90.39	4.35	5.26
2002	2074	122	79	91.16	5.36	3.47
2003	2669.5	241.92	99.58	88.66	8.03	3.31
2004	2846	271	118	87.98	8.38	3.65
2005	3247	311.84	141.42	87.75	8.43	3.82
2006	3592.64	376.90	162.47	86.95	9.12	3.93
2007	4463.75	384.17	190.10	88.60	7.63	3.77
2008	6658.37	585.46	203.56	89.41	7.86	2.73
2009	7457.44	573.98	230.05	90.27	6.95	2.78

20

シート 20

## 2009年生保保険料の構成



21

シート 21

## 1. 中国生命保険市場の現状

②生保の種目構成の調整により、主な種目は過去伝統商品の生存死亡保障から新生保商品に変更

中国生保会社の保険商品発展の2つステップ:

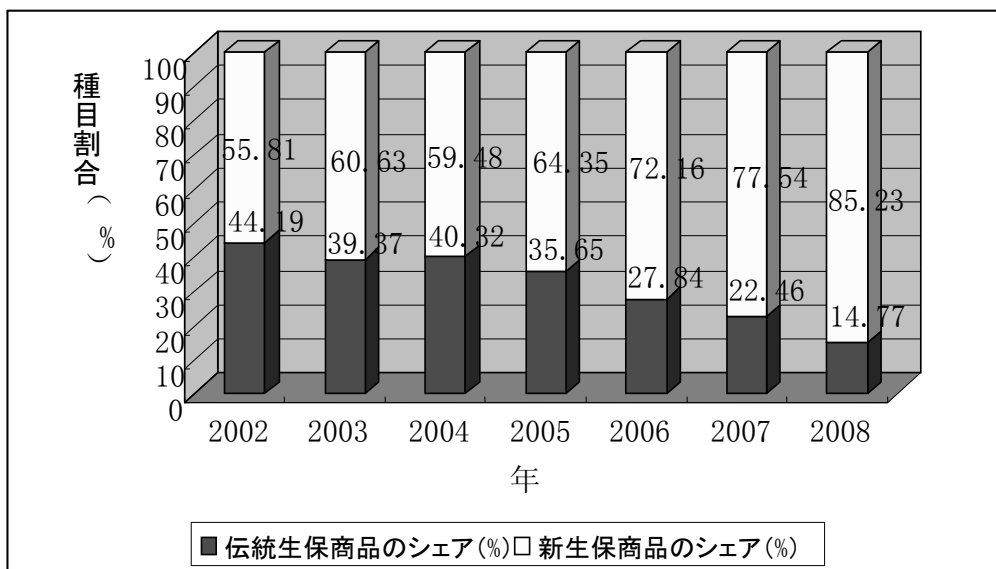
- ステップ1. 主な種目は伝統の生保商品(1982~1999年):  
主に定期保険、養老保険、終身保険と年金保険
- ステップ2. 主な種目は新生保商品(1999年以來)

原因:金利の大幅下がりにより、伝統の生保商品の高予定金利は保険会社にぎゃくざやのリスクを増加させ、同時国民の投資型商品のニーズがあり

22

シート 22

## 2002～2008年 伝統生保商品と新商品のシェアの変動



シート 23

## 2002～2008年配当付保険、 ユニバーサル保険、変額保険のシェアの変動

年	配当付保険シェア (%)	ユニバーサル保険シェア (%)	変額保険シェア (%)
2002	51.10	1.55	3.16
2003	57.84	0.59	2.20
2004	56.54	1.24	1.70
2005	56.89	6.17	1.29
2006	59.37	11.07	1.72
2007	49.76	18.94	8.84
2008	57.06	21.79	6.38

24

シート 24



# 1. 中国生命保険市場の現状

## (4) ひとつ多層な生命保険市場構造の形成

- 生保仲介市場の更なる発展。  
2009年まで保険仲介の専門機構は2,570社がある。
- 専門の生保会社の設立。2009年末まで専門の養老保険会社5社、専門の健康保険会社4社がある。
- 民間資本の生保市場進入。2003年中国初めての民営生保会社として民生人壽保險株式会社は設立。

組織形式の多様化、主体の多元化、経営方式の多様化の生保市場は形成中。

25

シート 25

### 2008年保険機構数及び従業員人数一覧表

番号	項目	単位	社数/人数		
			合計	中国資本	外国資本
1	保険会社	社	120	72	48
1.1	内訳: 保険グループ	社	8	8	0
1.2	損保会社	社	47	31	16
1.3	生保会社	社	56	30	26
1.4	再保険会社	社	9	3	6
2	資産管理会社	社	10	10	0
3	専門保険仲介会社	社	2445		
3.1	内訳: 保険代理会社	社	1822		
3.2	保険ブローカー会社	社	350		
3.3	保険鑑定会社	社	273		
4	保険兼業代理機構	万社	13.66		
5	保険従業員	万人	322.81		
5.1	内訳: 保険外販員	万人	262.87		

シート 26

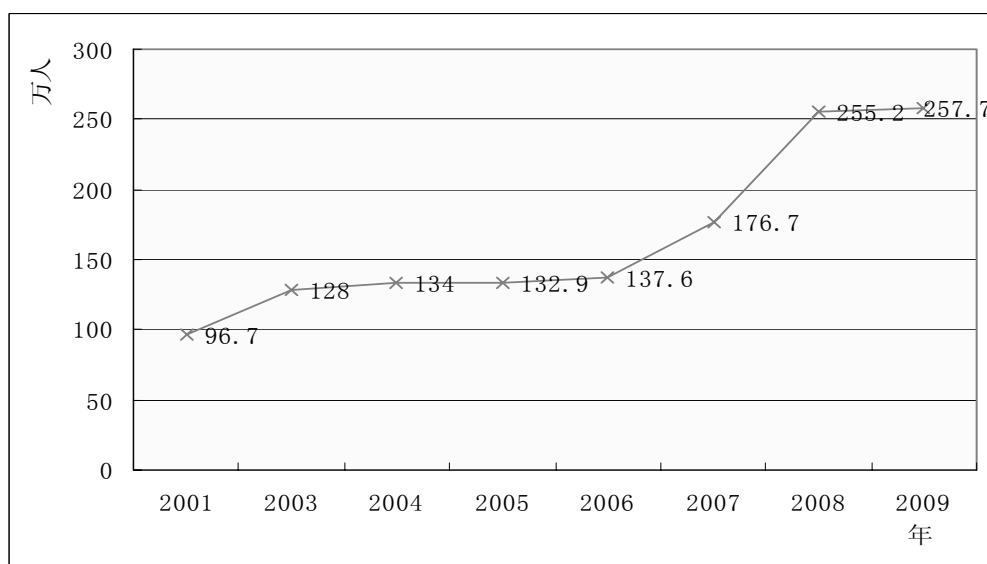
## 2001～2009年 中国保険仲介の発展状況

年	保険代理店 (社)	保険ブローカー (社)	生保外販員 (万人)
2001	127	17	96.7
2003	507	83	128.0
2004	955	197	134.0
2005	1340	268	132.9
2006	1558	297	137.6
2007	1755	322	176.7
2008	1822	350	255.2
2009	1903	378	257.7

27

シート 27

## 2001～2009年 中国生保業外販員の発展



28

シート 28

## 1. 中国生命保険市場の現状

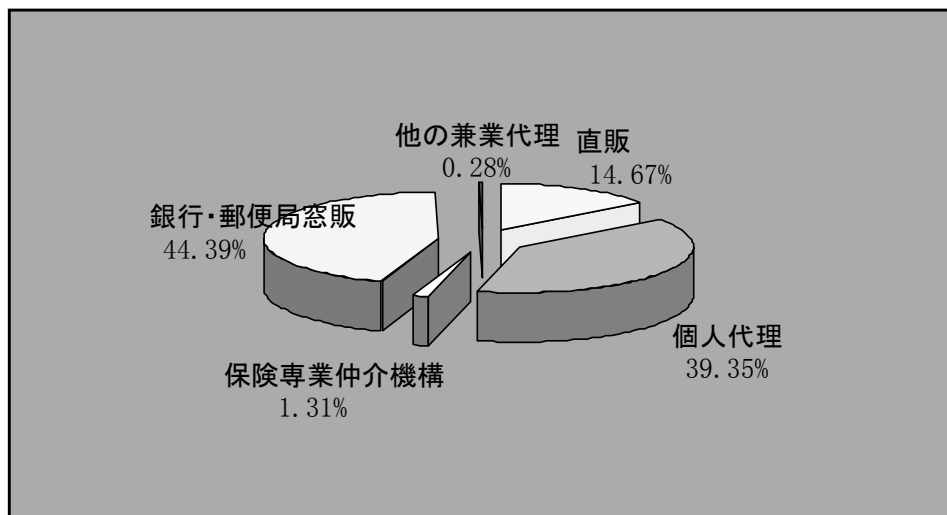
### (5) 営業手法の多元化、個人代理及び銀行・郵便局の窓販はメイン

- 2000年より銀行・郵便局の窓販開始  
銀行・郵便局は強いネットワークがある  
保険料収入は生保業保険料収入のシェア：
- 2002年 17.09%
- 2008年 48.92%

29

シート 29

### 2009年中国生保市場の 営業手法毎の保険料収入シェア

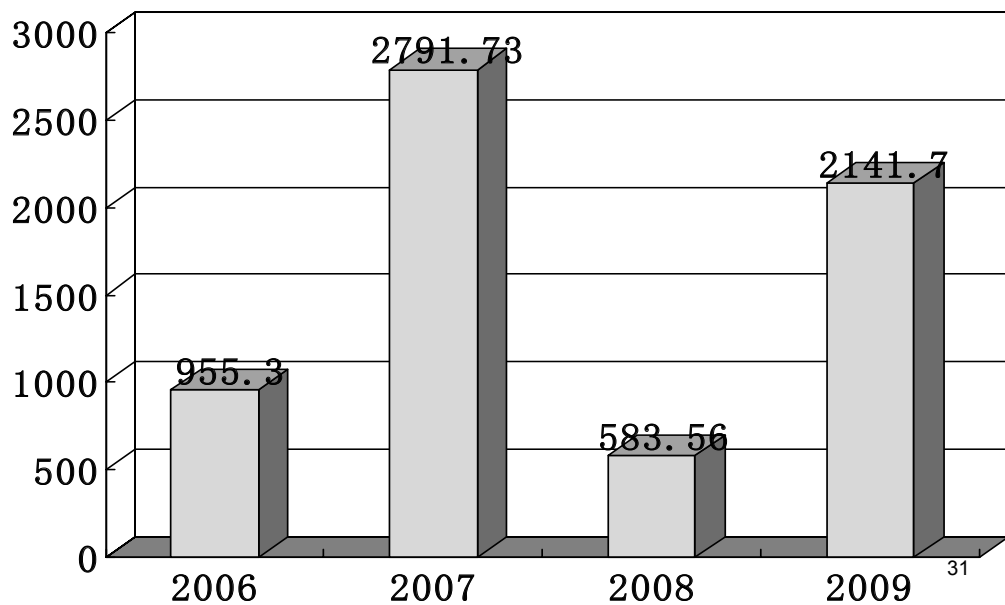


30

シート 30

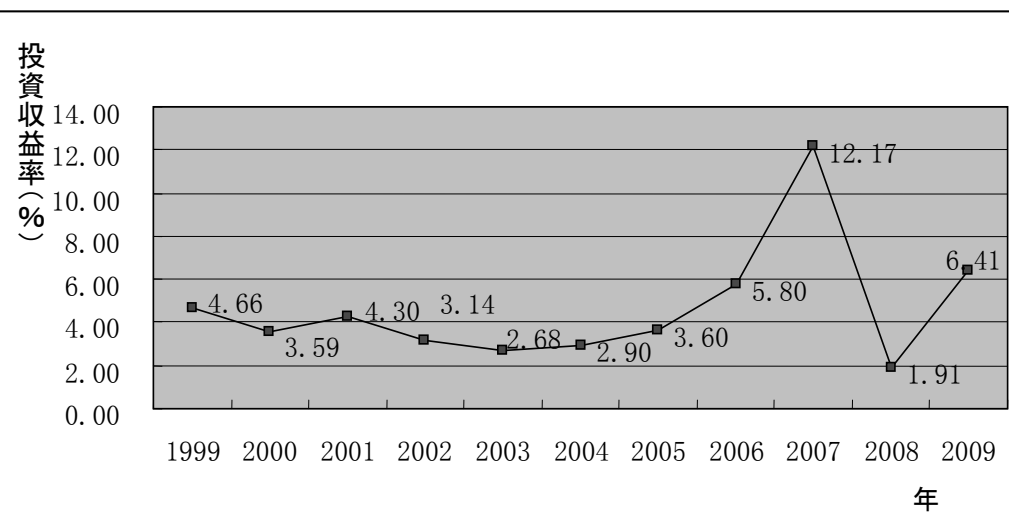
# 1. 中国生命保険市場の現状

## (6) 資金運用規制の緩和、投資収益率の増加（億元）



シート 31

## 1999～2009年 中国保険業の投資収益率の変動



32

シート 32



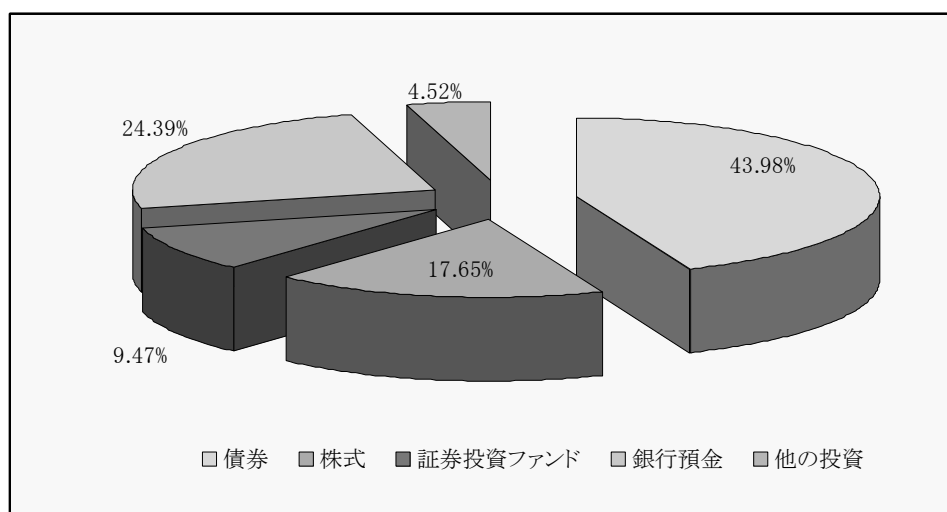
## 1999～2008年 中国保険資金運用の構成表(単位:%)

年	銀行預金	債券	証券投資ファンド と株式	他の投資
1999	51.00	37.00	0.80	11.20
2000	48.60	37.70	5.30	8.30
2001	53.00	21.80	5.70	19.50
2002	54.70	20.00	5.60	19.70
2003	52.10	16.00	6.21	25.69
2004	46.50	24.80	6.30	22.40
2005	36.66	52.66	8.97	1.71
2006	33.67	53.15	10.03	8.05
2007	24.39	43.98	27.11	4.52
2008	26.47	57.88	13.33	2.32

33

シート 33

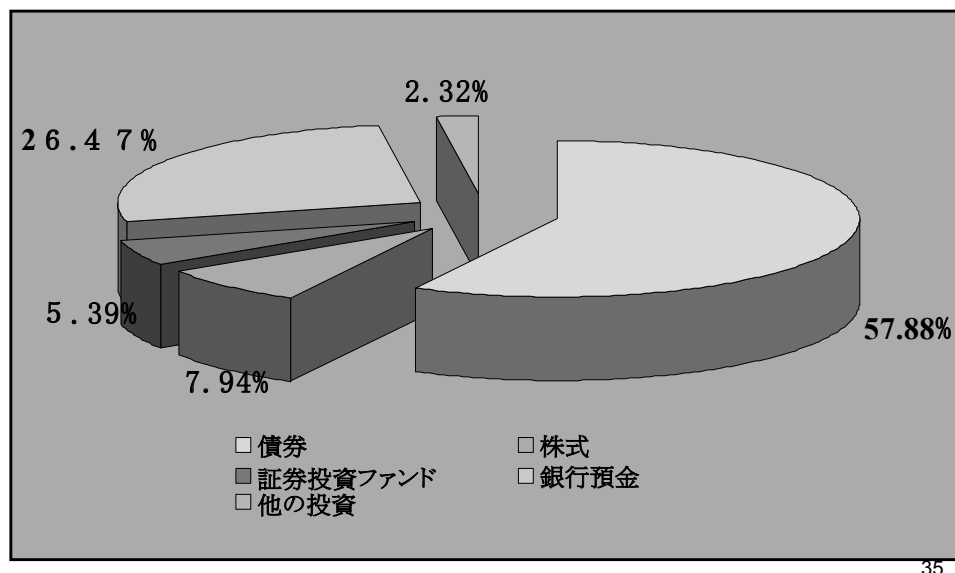
## 2007年中国保険会社の投資構成(%)



34

シート 34

## 2008年中国保険会社の投資構成(%)



35

シート 35

## 2008年中国保険会社の投資構成一覽表

	資金運用残高(億元)	構成割合 (%)
一、銀行預金	8087.55	26.47
二、債券	17684.17	57.88
1.国債	4208.26	13.77
2.金融債	8754.06	28.65
3.社債	4598.46	15.05
三、証券投資ファンド	1646.46	5.39
四、金融資産	67.46	0.22
五、株式	2425.36	7.94
六、金融派生商品	3.24	0.01
七、貸付	309.51	1.01
八、不動産投資	86.55	0.28
九、コールローン	2.58	0.01
十、他の投資	239.89	0.79
合計	30552.77	100.00

36

シート 36

## 1. 中国生命保険市場の現状

### (7) 生命保険市場の対外開放

- 中国生保業務再開以来、1992年中国保険市場へ初めて進出した外資保険会社の米国AIA上海支店は設立
- 1996年中国初めての中外合弁生保会社の中宏人壽は設立
- 2001年中国はWTO加入
- 2008年末まで、生保56社の中に、外資保険会社は26社
- 外資保険会社の生保保険料収入の市場シェアは2000年の0.2%から2008年の4.92%に成長。

37

シート 37

## 2. 中国生命保険市場の問題点

- 有効供給と有効需要不足の矛盾
- 構造アンバランスの矛盾
- 業界の自己規律組織の発展は業界の発展より遅れの矛盾
- 保険市場のグローバル化と監査方式の矛盾
- 保険経営の総合化と監査方式の矛盾
- 資本市場の不安定と商品開発の矛盾
- 地域発展の格差の矛盾
- 社会保険と民間生保のアンマッチングの矛盾

38

シート 38

## 2. 中国生命保険市場の問題点

### (1) 有効供給と有効需要不足の矛盾

#### ① 有効供給の不足

- 市場主体が少ない、市場の集中度が高い
- 商品開発の不合理的
- 営業体制の不健全
- 生保の全体資本の強化が必要
- 市場撤退体制の形成が必要

39

シート 39

## 2. 中国生命保険市場の問題点

### (1) 有効供給と有効需要不足の矛盾

#### ② 有効需要の不足

- 市場経済体制の不健全
- 国民の保険意識は薄い
- 収入水準は低い、貧富の格差は広い
- 保険価格は高いため、生保商品に対するニーズの減少

40

シート 40

## 2. 中国生命保険市場の問題点

### (2) 構造アンバランスの矛盾

#### ①商品の構造

- 健康保険と傷害保険のシェアは低い。
- 保険料規模を過度追求、業務の質を無視するため、短期契約が多く、一括払保険料契約のシェアが大きく、投資型商品は多い。

41

シート 41

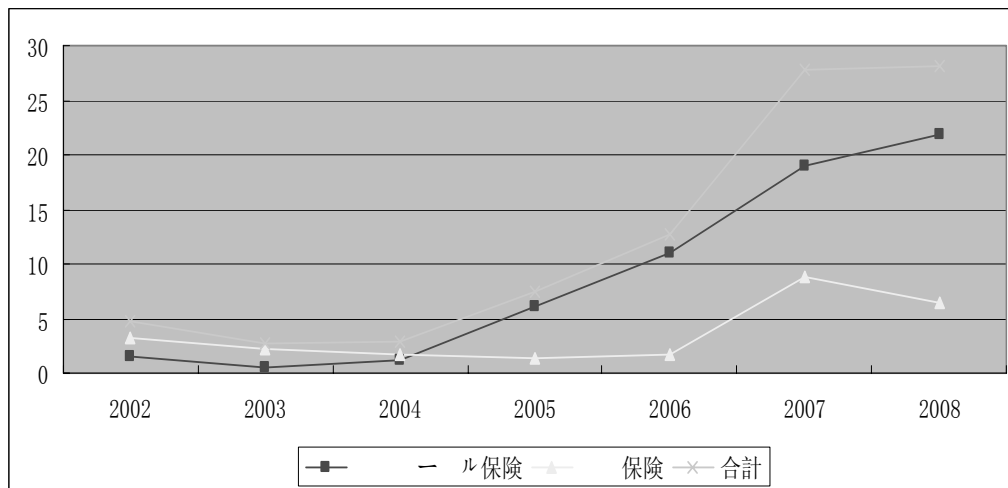
### 2002～2008年 投資型生保商品の発展状況(単位:%)

年	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
ユニバーサル 保険	1.55	0.59	1.24	6.17	11.07	18.94	21.79
変額保険	3.16	2.2	1.7	1.29	1.72	8.84	6.38
合計	4.71	2.79	2.94	7.46	12.79	27.78	28.17

42

シート 42

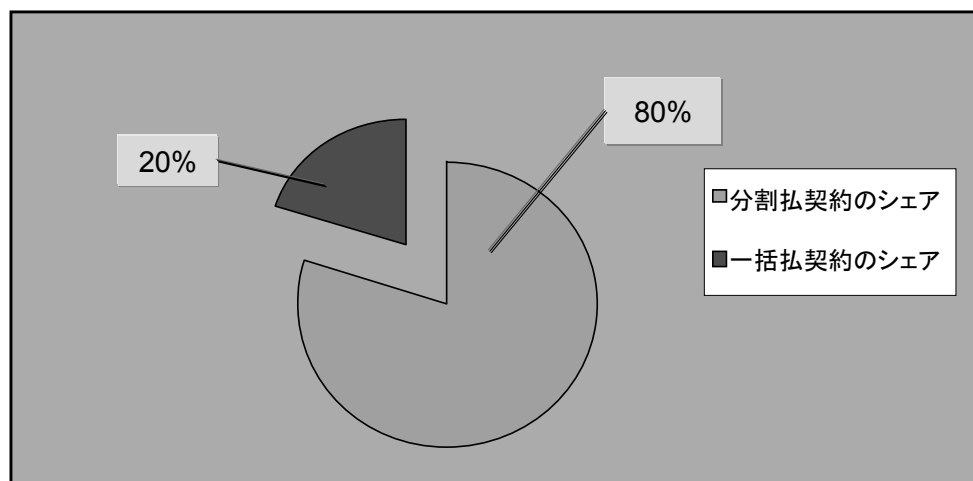
## 2002～2008年 投資型生保商品の発展状況(単位:%)



43

シート 43

## 2008年中国生保保険料収入の構成



44

シート 44

## 2. 中国生命保険市場の問題点

### (2) 構造アンバランスの矛盾

#### ②営業手法の構造、特に銀行・郵便局との協力レベルは高くない

- 専業保険仲介の機能を発揮していない
- 外販員の法律上の地位は不明確
- 銀行と保険の協力は保険商品販売に限り

45

シート 45

## 2. 中国生命保険市場の問題点

### (2)構造アンバランスの矛盾

#### ③主体構成

- 市場の主体は少ない
- 市場の集中度はまだ高い

46

シート 46



## 2. 中国生命保険市場の問題点

### (3) 業界の自己規律組織の発展は業界の発展より遅れの矛盾

- 業界の自己規律組織の健全化
- 業界の自己規律制度の健全化

47

シート 47

## 2. 中国生命保険市場の問題点

### (4) 保険市場のグローバル化と監査方式の矛盾

- 保険監査の制度
- 保険監査体制と監査手段

48

シート 48

## 2. 中国生命保険市場の問題点

### (5) 保険経営の総合化と監査方式の矛盾

- 監査法制の不健全
- 監査主体の不足、特に交差業務に対する監査
- 分業監査は総合経営の保険機構の監査に不利
- 外資金融機構に対する監査の実施が不可能
- 監査コストが高い

49

シート 49

## 2. 中国生命保険市場の問題点

### (6) 資本市場の不安定と商品開発の矛盾

- 資本市場の不安定
- 保険投資手段が少ない  
投資比例に対する規制が厳しい

50

シート 50

## 2. 中国生命保険市場の問題点



シート 51

## 2007年中国保険会社の投資収益率

	資金運用残高 (億元)	収 率 (%)
一、銀行預金	6516.26	3.19
二、債券	11752.79	4.43
1.国債	3961.12	4.61
2.金融債	4937.73	3.41
3.社債	2801.65	5.95
三、証券投資ファンド	2530.46	55.89
四、金融資産	519.02	2.60
五、株式	4715.63	31.70
六、金融派生商品	0.13	695.78
七、貸付	337.39	0
八、不動産投資	69.29	0
九、コールローン	14.90	2.76
十、他の投資	266.09	52.50
合 計	26721.94	12.17

シート 52

## 2008年中国保険会社の投資収益率

	資金運用残高（億元）	収 率（％）
一、銀行預金	8087.55	3.85
二、債券	17684.17	4.68
1.国債	4208.26	4.46
2.金融債	8754.06	4.71
3.社債	4598.46	4.89
三、証券投資ファンド	1646.46	-8.52
四、金融資産	67.46	1.68
五、株式	2425.36	-9.88
六、金融派生商品	3.24	917.83
七、貸付	309.51	5.55
八、不動産投資	86.55	3.90
九、コールローン	2.58	6.59
十、他の投資	239.89	5.81
合 計	30552.77	1.91

シート 53

## 2. 中国生命保険市場の問題点

### 保険業の収益情況（単位：億元）

	投資収益	総合収益
2006年	955.30	51.00
2007年	2,791.73	678.00
2008年	583.56	50以上
2009年	2,141.70	530.60

54

シート 54

## 2. 中国生命保険市場の問題点

### (7) 地域発展の格差の矛盾

- 経済発展のアンバランスによる生保業発展のアンバランス
- 北京、上海、深セン、広東の経済発達地域において、市場供給主体が多く、需要が大きく、生保保険料収入が多い
- 中西部地区、経済不発達、生保のニーズが少なく、保険意識が薄く、生保の保険料収入は全国に占めるシェアが小さい

55

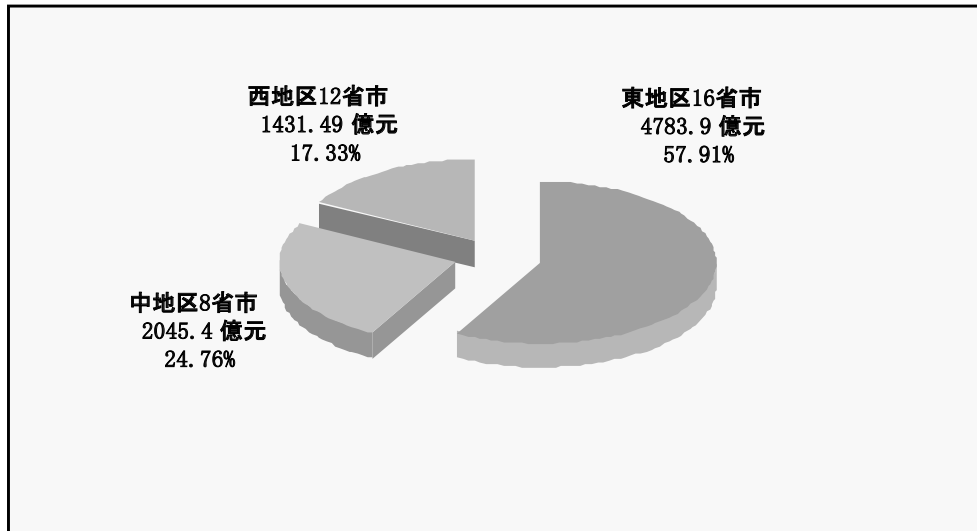
シート 55

### 2009年中国各地域の生保保険料収入情況

地区	生保保険料収入(億元)	割合(%)	地区	生保保険料収入(億元)	割合(%)
東地区	4783.9	57.91	黒龍江	221.65	2.68
北京	533.18	6.45	安徽	269.62	3.26
天津	105.49	1.28	江西	143.01	1.73
河北	472.41	5.72	河南	467.66	5.66
遼寧	259.02	3.14	湖北	303.45	3.67
大連	83.45	1.01	湖南	273.48	3.31
上海	513.22	6.21	西地区	1431.49	17.33
江蘇	679.34	8.22	重慶	197.65	2.39
浙江	341.76	4.14	四川	430.31	5.21
寧波	56.37	0.68	貴州	59.18	0.72
福建	199.59	2.42	雲南	111.92	1.35
アモイ	38.98	0.47	西藏	0.59	0.01
山東	503.9	6.1	陝西	199.07	2.41
青島	80.97	0.98	甘肅	87.33	1.06
広東	720.47	8.72	青海	10.25	0.12
深セン	174.53	2.11	寧夏	27.44	0.33
海南	21.22	0.26	新疆	104.87	1.27
中地区	2045.4	24.76	内モンゴル	103.97	1.26
山西	222.12	2.69	広西	98.91	1.2
吉林	144.41	1.75	全国合計	8260.79	100

シート 56

## 2009年中国各地区の生保保険料収入



57

シート 57

## 2. 中国生命保険市場の問題点

### (8) 社会保険と民間生保のアンマッチングの矛盾

- 社会保険の対象範囲は狭い。社会保険の加入者は主に都市部の労働人口、大量の農村部の人口及び一部都市の人口は社会保険の対象外。
- 保障範囲は広い。社会保険は高い保障水準を有する。
- 上記2つの特徴による社会保険はある程度で商業生保となったため、社会保険を補完する機能を商業保険は発揮し難くなる。

58

シート 58

### 3. 中国生命保険市場健全化の検討

- 生保市場主体及び市場構造の改善
- 生保商品構造の改善
- 営業チャンネル構造の改善
- 投資方法及び投資比例の緩和、保険資金運用のリスク管理体制の改善
- 生保市場の差異化の発展
- 生保市場の発展基礎の改善
- 生保市場の開放方式の改善
- 都市と農村の統一社会保険制度の実現、商業生保商品の社会保険を補充する機能の発揮

59

シート 59

### 3. 中国生命保険市場健全化の検討

#### (1) 生保市場主体及び市場構造の改善

- 生保市場主体の改善
  - 保険会社の管理体制の改善
  - 中小保険会社及び保険仲介の発展促進
  - 保険組織の形式の増加
- 生保市場構造の改善
  - 市場進出体制の改善
  - 情報公開制度の改善
  - 寡占市場から独占的競争の市場モデルへの転換<sup>60</sup>

シート 60



### 3. 中国生命保険市場健全化の検討

#### (2) 生保商品構造の改善

- ・市場のニーズに基づき、商品構造を調整
  - 市場のニーズに基づき、会社の商品構造を調整、国民の生保ニーズを満たす。
  - 商品、営業手段、投資、価格政策等から商品構造を調整
- ・商業養老保険及び健康保険の発展を促進
  - 企業年金業務を拡大
  - 養老保険及び健康保険の商品開発を促進
  - 適切な税收政策の支持

61

シート 61

### 3. 中国生命保険市場健全化の検討

#### (3) 営業チャンネル構成の改善

- ・ 個人外販員制度の改善
- ・ 銀行との協力体制を強化、戦略的な関係及び出資関係の展開
- ・ 電話販売及びインターネット販売方式の発展

62

シート 62

### 3. 中国生命保険市場健全化の検討

#### (4) 投資方法及び投資比例の緩和、保険資金運用のリスク管理体制の改善

- 投資方法及び投資比例の更なる緩和
- 保険資金運用リスク管理体制の改善
  - 保険資金運用監督管理体制の改善
  - 企業内部の投資リスクマネジメント体制の改善

63

シート 63

### 3. 中国生命保険市場健全化の検討

#### (5) 生保市場の差異化

- 経営の差異化。
- 組織形式の差異化。
- サービスの差異化、商品の差異化。
- 営業チャンネルの差異化。

64

シート 64

### 3. 中国生命保険市場健全化の検討

#### (6) 生保市場の発展基礎の改善

- 監督管理の法的制度及び生保監督管理体制の改善
  - ① 総合的な経営監督管理体制の形成
  - ② 保険市場撤退制度の形成
  - ③ 外資保険会社の監督管理制度の形成
- 会社の社内監査制度の強化
- 業界の基礎建設の発展
- 業界内自己規律制度の改善

65

シート 65

### 3. 中国生命保険市場健全化の検討

#### (7) 生保市場の開放方式の改善

- 数量主導型方式の改善
  - ① 金融リスクの回避
  - ② 中国生保市場発展の不発達及び発展のアンバランス
  - ③ 海外の経験
- 条件を満たす国内保険会社の海外保険機構設立の支持

66

シート 66

### 3. 中国生命保険市場健全化の検討

#### (8) 都市と農村の統一社会保険制度の形成、商業生保商品の社会保険を補充する機能の発揮

- 都市と農村の統一の社会保険体制の形成
- 商業生保と社会保険の相互発展を促進
  - ① 社会保険の情報収集、データ蓄積、普及の優位性を利用、国民医療及び養老データを作成
  - ② 商業生保を利用して社会保険を補完

67

シート 67

## ご清聴をありがとうございました

ご連絡先:

電話: 0086-10-82572451、0086-10-82572744

FAX: 0086-10-82572744

Email: wangxujin@foxmail.com

feial@mx.cei.gov.com

68

シート 68